

学生教育の質を高める
「教育・学修総合センター」

松戸歯学部では「教育・学修総合センター」を設置し、学修を支援する教育システムを構築しています。収集した成績等のデータに基づいて作成した教材を学生に提供し、苦手分野の克服を目指しています。また、全ての試験成績に基づいて分析したデータを学生にフィードバックすることで、学びを確実に進めるためのサポートを行っています。

1年次

前学期後学期

2年次

前学期後学期

3年次

前学期後学期

4年次

前学期後学期

5年次

前学期後学期

6年次

前学期後学期

医療行動科学領域

歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修します。

医療行動科学1～4

教養系領域

全学共通教育科目
自主創造の基礎 など

教養科目
歯科医学へのとびら、
法学、心理学 など

保健体育科目
保健体育

外国語科目
英語1～4

準備教育科目
物理学、生命科学、数学

基礎歯科医学領域

歯科医師になるためには、人体の構造とその詳細、人体の各部分の機能を十分に理解する必要があります。さらに、病気の原因や治療に用いる薬の作用なども十分に理解しておく必要があります。このような医学にとって基本的な知識は基礎医学と呼ばれており、専門的には解剖学、組織・発生学、生理学、生化学、薬理学、微生物・免疫学、病理学などの分野に分かれています。また歯科医学においては生体との関わりの中で材料学が重要な役割を果たしています。そこでこれらの学科目を系統的に学修し、生体の構造や機能について幅広い医学知識や実際の歯科治療の知識・技術修得へ向けての基礎知識を身に付けます。

微生物・免疫学、病理学、歯科材料学 など

総合歯科医学領域

複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的とします。

歯科医学総合講義1～5

臨床実習領域

担当医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと接することで、技術だけでなくとどまらず、歯科医師としての態度、職業意識を身に付けます。

臨床実習

課題別
臨床実習

共用試験（CBT・OSCE）

臨床実習前に、内科学・外科学などを主体にした医学分野を横断的かつ複合的に学び、「オーラルサイエンス(口腔科学)」を実践するための知識・技術を統合的講義にて身に付けます。

総合医学

口腔衛生学、社会歯科学 など

臨床歯科医学領域

からだ全体についての医学的知識をもとに、歯科治療はどうあるべきかという理論と具体的な治療法について学びを深めます。歯の硬組織や周辺組織に関する疾患や、その欠損と障害、口腔顎顔面領域の軟組織や硬組織に発生する疾患や障害、発育、成長過程に発生する疾患や障害、また高齢者に特有の疾患や障害とその治療法を学び、多様な歯科医療対応を修得します。

歯科矯正学、高齢者歯科学、放射線学 など

総合歯科医学領域

歯科医学総合講義 6

歯科医師国家試験

基礎的な歯科医学を総合的・複合的に学ぶ

幅広い教養の知識と



学生インタビュー

Student Interview

私は看護師として5年の臨床経験を経て、2年次編入で松戸歯学部に入學しました。これまで医療の現場に携わってきた経験から、歯科についてより専門的に学びたいと考え、本学部での学びを志しました。

編入当初は、学生生活に馴染めるかという不安もありましたが、クラスメートや面倒見の良い先生方の温かいご指導に支えられ、安心して学業に取り組むことができました。実習や日々の講義を通して、学びたい気持ちをしっかり支えてくれる環境だと感じます。

2年次では医学的基礎科目や解剖学、生理学など、歯科医療の土台となる知識を集中的に学びました。全身の仕組みを理解したうえで口腔を捉える視点が養われ、歯科医療が全身と深く関わっていることを実感

した一年となり、基礎を丁寧に積み重ねることの大切さを改めて感じる機会にもなりました。

3年次になると、歯科保存学や歯科補綴学などの専門科目が始まり、基礎で学んだ内容がどのように臨床へつながるのかを具体的に理解できるようになりました。知識が点から線へとつながっていく感覚は非常に興味深く、歯科への理解が深まっていくのを感じています。

社会経験を経て大学に入り直した私ですが、いつからでも学び直す環境を整えてくれている大学に感謝しています。

白瀬 芙実さん(4年次生)

学びの特色

Featured Learning

歯科矯正学



講義と実習を行いながら学修を進めます。講義では、歯科矯正学の歴史と定義、正常咬合、不正咬合の原因および予防などを学びます。実習では、不正咬合の治療がどのような装置によって行われるか、また、歯がどのように動くのかについて、実際の矯正器具を使いながら理解を深めます。

高齢者歯科学



現代の超高齢社会において、高齢者に関する歯科医学、歯科医療の知識は非常に重要なものとなっています。高齢者歯科学では、加齢による口腔内の変化をはじめ、高齢者をとりまく社会経済的環境、保健福祉制度をはじめとした、超高齢社会における歯科医師に必要な知識、技能を学修します。

4年次前学期の時間割 (令和8年度 参考)

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	障害者歯科学	高齢者歯科学	口腔顎顔面外科学	総合医学	小児歯科学
2	歯科矯正学	歯科保存学2			歯科補綴学2
3		社会歯科学	歯科保存学2	歯科医学総合講義4	
4		歯科補綴学2		医療行動科学4	

教員からのメッセージ

Message from the teacher

1～4年次は、歯科医師としての確かな基盤を築くための極めて重要な期間です。松戸歯学部では、歯科医師に求められる知識・技能・態度を、段階的かつ体系的に修得できます。

1年次には、教養系科目を中心に学び、物事を多角的に考える力や豊かな人間性を育成します。あわせて、歯科医学と社会との関わりを理解することで、学修に対する主体性と明確な目的意識を養います。

2年次では、人体の構造や機能、疾病

の成り立ち、薬物の作用など、臨床の基礎となる医学的知識を修得します。さらに、歯科材料に関する理解を深めることで、歯科医師としての基礎力を確かなものにします。また、歯科医療が社会に果たす役割を学び、地域や社会の健康を支える使命感を育みます。

3～4年次には、歯・歯肉・顎顔面領域の疾患や障害など、より臨床に即した内容を学びます。加えて、ライフステージごとの特徴的な疾患や治療法を学ぶことが出来ます。また、内科学や外科学など

を学ぶことで、口腔と全身の密接な関係を理解できます。

この4年間の学びの積み重ねは、共用試験および国家試験の合格に繋がるだけでなく、人々の健康と人生を支える歯科医師としての揺るぎない力となります。皆さんと共に学べることを楽しみにしています。

鈴木 到 専任講師



付属病院での臨床実習

全国トップクラスの来院患者数を誇る



学生インタビュー

Student Interview

5年次からは、付属病院での実践的な授業である臨床実習が本格的に始まります。

臨床実習は各診療科を一定期間ずつ経験するローテーション形式で行われるため、むし歯治療や歯周病治療のほか、顎や顔面などに現れる疾患の治療など、歯科医療の幅広い分野を体系的に学ぶことが可能です。

さらに臨床実習では、これまで身につけてきた知識をもとに実際に患者さんと接し、診療の流れやコミュニケーションのとり方を学びます。4年次までは座学が中心でしたが、5年次以降は知識を「使う」ことが求め

られ、歯科医師として必要な考え方や判断力を身につけていきます。

また、5年次では、定期試験や国家試験の対策として、臨床実習の空き時間に自習室や図書館での自主学習に取り組みます。松戸歯学部は、教員と学生の距離が近く、分からないことがあればすぐに相談できる環境が整っているため、国家試験に向けて着実に成長することができます。

山本 大夏さん(6年次生)

学びの特色

Featured Learning

診療参加型臨床実習(SD診療)

付属病院を受診する患者さんの診療に参加し、歯科医療の実践力を培います。指導医のもとで、初診時医療面接と応急処置、診察・情報収集と分析、総合的治療計画の立案、患者さんへの説明まで学生が行います。さらに、指導医の指示を仰ぎながら実際に患者さんの治療を担当し、患者さんとの良好な関係構築のためのコミュニケーション能力と診察技能を高めます。



課題別臨床実習



6年次に実施され、各診療科で参加型臨床実習を行いながら、新5年次生に基本的臨床能力を指導することで自身の知識・技能・態度を見直し、より専門的な知識・技能・態度を統合的に修得します。

歯科医学総合講義6



診断・治療・予防までの一貫した診療を実践できる歯科医師を目指して講義を行い、歯科医師国家試験の合格に向けて6年次までに履修した知識・技術を集約します。

教員からのメッセージ

Message from the teacher

5年次になると付属病院での臨床実習がスタートします。様々な診療科があり、配属として全ての科の診療に参加することができます。4年次までの知識がここで実際の歯科治療と結びついていきます。

また、患者さんを担当し、診査・診断・治療計画立案を自ら行い、治療を行っていきます。最初は緊張や戸惑いが伝わってきますが、1年を通しての知識と技術の向上には目を見張るものがあります。それ以上に感じるのは患者さんに対する姿勢の変化です。

歯科医師とは痛みや苦しみ、悩みを抱えている方と対峙する職業です。我々が求められるのは知識や技術だけではなく、相手に寄り添い、真摯に向き合い、根気強く改善に導く精神力です。臨床実習では、歯科医師が持つべき思いやりや誠実さ、忍耐力そして患者さんや仲間への感謝の気持ちを育ててほしいと思っています。

6年次になると、担当患者さんに「ありがとう、歯科医師になれるよう頑張ってる」と、感謝と激励を受けて臨床実習も

終わります。その後、いよいよ国家試験に向けての大詰め勉強が始まり、多くの試験をこなします。十数人の班ごとに国家試験対策の教員が学習や生活のサポートをします。6年という長い学生生活で困難なこともありますが、歯科医師になった時の皆さんの顔はとてもキラキラしています。それぞれが目指す歯科医師の姿となり、社会に貢献して欲しいです。

鈴木亜沙子 専任講師

